突然のアナフィラキーショックが治癒したケース

ファミリーホメオパス　清原 祥代

ケース　8歳　女児

【主訴】　アナフィラキシーショック様 症状

【具体的内容】
今回初めて、突然アナフィラキシー様症状を起こす。（元々アレルギーを持っていた訳ではない。）夕飯に、いくら丼を食べ、食べている最中に唇が痒くなり始める。その約3時間後、軽い咳と軽い喘鳴、頭からつま先まで全身に広がる激しい発疹と痒み。（発熱なし。呼吸苦なし。意識あり。）発疹は赤く腫れ上がり、腫れた発疹と発疹がつながり全体的に大きく広がっている。

【レメディ選択】
手持ちの、キッズキットとサポートチンクチャーとクリームを処方。

・Acon.　200C　　・サポートK-T
・Apis .　200C　　・サポートJ
・Phos.　200C

↑以上、3種類を交互にリピート　　↑以上、2種類を500mlのお水に入れて飲む

・スパジリックビーCクリーム　　※全身に塗る

【選択の根拠】
Acon.　：講義で、「急性のショック、あらゆる急性症状の初期に、突然の驚き」と習っていたことから、まず一番に選択。
Apis .　：“ホメオパシー in Japan”より、「アレルギー、蕁麻疹、むくみ（浮腫）、アナフィラキシーショック」という特徴と、喘鳴があったため咽頭粘膜の腫れも想定し選択。
Phos.　：マテリアメディカに「気管支炎、肺炎」と載っていたことと、講義で動植物と鉱物のレメディを同時に摂る事を習った事から鉱物のレメディを選択。
サポートK-T　：排泄を促す意味で選択。
サポートJ　：排泄を促す意味で選択。
スパジリックビーC　：全身の痒みに対し、手持ちのクリームで対処。

【経過】
痒みと腫れが少しづつではあるが引いてくるのがわかる。その約1時間後に嘔吐する。（未消化のままの夕飯をそのまま嘔吐。）　また、更に約2時間後には、全ての症状が明らかに好転し、女児は眠りにつく。（皮膚の赤みはまだ少し残っていた。）翌朝には、
すっかり元気になっており、皮膚症状もなくなっていた。

【考察】

“ホメオパシーin Japan”にあるように、ヒスタミンの出るアレルギー症状にApis.がよく効いたと実感した。あと、消化できなかった食べ物が嘔吐により排泄され、一気に回復へと向かった。臓器にアプローチしていた事も早期治癒に繋がったのではないかと感じる。